

夢中熱中

Maryu Nettyu

ガーデニング

伊東 裕子さん（東御市）



植物とともに育つ庭

くわ一つで開墾。

母屋から庭に過したデッキをとりて行くと、周囲の雑木林に溶け込むように、自然な風情の庭が広がっている。東条向きの約6600平方メートルの約660坪。

傾斜のきつい土地を一つ一つで耕し、庭に整えてきた。「結構大きな石が出てきて、土留めに利用しました。まさしく「開墾」。楽しみに話す。

6年前、横浜のマンションからこの小高い丘の上の家に移り住んできた。1年目は周りとなじみずらいと、ある程度自然のままにしていたが、草木の繁殖力は想像以上。「これは…」と思い、翌年から少しずつ手をいれてきた。

育った姿を想定して苗を選び、所々こぼれ種で増えた草花を移植するなど調整し、思い描いた庭にデザイン。また春浅い3月から草取りなどの作業を始め、植物が輝くこの季節は、朝記

きるとまちは庭へ飛び出ます。細やかな世話と開墾士がたい種した藍が土壌にはくまれば、草木もすくすく成長している。

変化に富んだ眺め

里にそよぐ花々は、白の中にブルーや淡いピンクを配し、柔らかな色合いでまとめている。220種あるうちのほとんどが宿根草。多年草。年々株が大きくなるにつれ庭も充実し、やっとなじみず形になってきました。植物の成長が庭を育ててくれたと感謝する。

庭の頂上付近から北の方向を望むと青々とした田んぼの向こうに浅間山。そして連なる山々が見渡せ、何とも開放的。一軒、母屋側の雑木林が周囲からの視界を柔らかに遮る。立つ場所で変化する眺めもまた魅力だ。「マツキから眺めている



庭の頂上からの眺め

と、まるで庭に包まれているよう。夕暮れ時、デッキに座って飲むビールは最高だ。

手つかずの一角もあり、お楽しみはまたこれから。「庭造りに完成はありません。少しずつ手を加え、変わっていく庭を見守るのが何よりの喜びです」。植物の育つスピードに合わせて、伊東さんのガーデニングは続いていく。



▲オムラサキ ホワイトレース



▼白バラの定番「アイスバーグ」